Food Innovators Holdings Limited
6 Eu Tong Sen Street
#09-17 The Central
Singapore 059817

For Immediate Release

フード・イノベーターズ・ホールディングス、2027 年度上半期におけるレストラン事業の売上総利益が 32.4%増加、持続可能で高利益率な収益基盤の構築に向けた戦略的シフトを推進

- レストラン事業の売上総利益は、前年同期比 32.4%増の 2.4 百万シンガポールドルに達し、売上高が 3.2%増加したことで粗利率は 3.8 ポイント改善の 17.2%へ上昇しました。

- グループ全体の売上高は、前年同期比 5.8%減の 22.5 百万シンガポールドルに着地しました。これは主に、2026 年度上半期におけるレストラン・リースおよびサブリース事業での成熟物件 10 件の売却に伴う減収によるものです。

- 当グループはまた、マレーシアを基盤に事業を提携している Daruma Syokudo Sdn. Bhd.（「Daruma Syokudo」）の買収を含め、継続して東南アジアでのレストラン事業の拡大を推進しており、同社の連結化によりグループ収益へプラスに寄与すると見込んでいます。さらに、マレーシアで事業を提携している Yaruki Malaysia Sdn. Bhd.（「Yaruki」）との協力の下、2026 年末までに新店舗 2 店、2027 年 1 月に新店舗 1 店の開店を予定しており、併せて日本におけるレストラン・リースおよびサブリース事業の拡大およびポートフォリオ最適化をしています。

シンガポール、2026 年 10 月 15 日 – アジア全域で日本食に焦点を当てるフード・イノベーターズ・ホールディングス（以下「FIH」、またはその子会社と合わせて「当グループ」）は本日、2026 年 8 月 31 日に終了した 6 ヶ月間（以下「2027 年度上半期」）の決算を発表しました。

2027 年度上半期ハイライト

主要財務ハイライト (未監査)	2027 年度上半期 (千シンガポールドル)	2026 年度上半期 (千シンガポールドル)	増減率 (%)
売上高	22,465	23,844	(5.8)
売上総利益	3,440	3,760	(8.5)
売上総利益率	15.3%	15.8%	(0.5 ppts[1])
その他の収益	234	496	(52.8)
当期純利益／(損失)	(395)	206	n.m.[2]

1. ppts はパーセントポイントを示します
2. n.m.は有意な比較ではないことを示します

Food Innovators Holdings Limited
6 Eu Tong Sen Street
#09-17 The Central
Singapore 059817

2027 年度上半期におけるグループ売上高は、前年同期比 5.8%減の 22.5 百万シンガポールドルとなりました。これは、レストラン・リースおよびサブリース事業（以下「RLSB」）の売上高が減少した一方で、レストラン事業（以下「FRB」）の売上増加によって一部相殺されたことによるものです。

具体的には、RLSB セグメントの売上高は、10 件の成熟物件売却に伴う収益減により前年同期比 17.4%減の 8.6 百万シンガポールドルとなりました。一方で、FRB セグメントの売上高は、前年同期比 3.2%増の 13.9 百万シンガポールドルへ拡大しました。これは主に、グループ全体のレストラン運営の堅調な成長によるものです。

売上総利益は前年同期比 8.5%減の 3.4 百万シンガポールドルであり、売上総利益率は 0.5 パーセントポイント低下し 15.3%となりました。これは主に、RLSB セグメントにおける減収に伴い売上総利益が前年同期の 2 百万シンガポールドルから 1.1 百万シンガポールドルへ減少し、FRB セグメントにおける売上総利益が前年同期比 32.4%増の 2.4 百万シンガポールドルに増加したことに伴い売上総利益率が 3.8 パーセントポイント増加し 17.2%になったことで相殺されたことによるものです。

その他の収益は、前年同期の 0.5 百万シンガポールドルから 0.2 百万シンガポールドルへ減少しました。これは主に、前年同期に新規株式公開（IPO）関連専門家費用に対する一時的な政府補助金約 0.3 百万シンガポールドルを計上したことによるものです。また、持分法適用合弁会社からの損失につき持分に応じて約 0.1 百万シンガポールドルの損失を計上しました。これは主に、新しい合弁会社である Yaruki が 2027 年度第2四半期に 1 号店を開店した際、立ち上げ初期段階において開業費用が発生したことによるものです。

これらの結果、2027 年度上半期の最終損益は、前年同期の 0.2 百万シンガポールドルの純利益から、0.4 百万シンガポールドルの純損失となりました。

市場見通しと事業戦略

・レストラン事業（FRB）の拡大

当グループは FRB セグメントの粗利益率向上を足がかりとして、マレーシアを重点地域と位置付け、戦略的提携、合弁事業、ライセンスおよびフランチャイズ契約を通じて店舗ポートフォリオの拡大を推進します。

東南アジアでの新規出店を進めており、Yaruki との提携のもと 2026 年中に 2 店舗、2027 年 1 月に焼肉店 1 店舗の開店を計画しています。これに先立ち、同パートナーとの共同開発コンセプトである焼鳥居酒屋「Hakata Yakitori Yokayokado」を新規開店いたしました。また、良好な業績を示しているマレーシアを中心に、ハラール認証を取得した「HONOLU ラーメン」および知名度の

Food Innovators Holdings Limited
6 Eu Tong Sen Street
#09-17 The Central
Singapore 059817

高い「KANBE」ブランドの多店舗展開を強力に推進します。Daruma Syokudo の連結化に伴うシナジー効果を含め、予測不能な事態がない限り、2027 年度下期の業績は改善する見込みです。

日本国内においては、和の伝統文化、ポップカルチャー、有名 IP コンテンツとのコラボレーションを活用した差別化コンセプトの導入を図るとともに、既存ポートフォリオを補完する選択的 M&A の検討を継続します。

・レストラン・リースおよびサブリース事業（RLSB）ポートフォリオの最適化

当グループは日本での店舗優良物件の発掘およびテナントマッチングの知見を生かし、RLSB セグメントのポートフォリオの拡大と最適化に注力します。2026 年度上半期の成熟物件売却を経て、安定した継続的賃貸収入の着実な構築を優先し、回収した資金を長期的なリターンと継続的収入に繋がる案件へ再投資します。

また、総合外食サービス機能の強化を図るため、「One Grip」の買収を通じて人材調達力を高め、日本国内の直営店舗および RLSB セグメントのテナント顧客双方の支援体制を拡充します。

・業務効率の向上とコスト管理

人件費の上昇および労働市場の逼迫を背景に、全社的な業務効率と生産性の向上に引き続き注力します。人工知能（AI）やデジタルツールの活用を模索し、中長期的な業務プロセスの合理化とコスト管理を推進します。規律ある資本配分姿勢を維持しながら、事業基盤と継続的収入の強化を目指します。

最高経営責任者（CEO）の久保田恭章氏は次のようにコメントしています。「成熟物件の売却に伴い、レストラン・リースおよびサブリース事業の貢献度が低下したことで全体業績は影響を受けました。しかしながら、既存ポートフォリオは引き続き安定した賃貸収入を生み出す見込みであり、サブリース事業ポートフォリオの拡大、安定した高収益店舗の取得、日本での運営受託契約の獲得に引き続き全力を注いでまいります。同時に、レストラン事業における売上総利益率の向上には非常に勇気づけられております。Daruma Syokudo の買収はグループの収益にプラスに寄与する見通しです。今後は、手応えを得ているマレーシアを中心にハラール認証の HONOLU ラーメンおよび新獲得の KANBE ブランドを拡大してまいります。また、日本の有力 IP コンテンツを活用したコラボレーションを通じて物販能力を強化し、中長期的な持続可能な収益基盤の構築に向けて邁進してまいります。」

-- 以上 –

フード・イノベーターズ・ホールディングス（FIH）について
2019 年 11 月 14 日にシンガポール共和国で設立された FIH は、主に(a)日本のレストラン事業

Food Innovators Holdings Limited
6 Eu Tong Sen Street
#09-17 The Central
Singapore 059817

における不動産とテナントのマッチングに焦点を当てたレストラン・リースおよびサブリース事業、ならびに(b)日本、シンガポール、マレーシアでの食品小売事業に従事しています。

レストラン・リースおよびサブリース事業を通じて得た日本の F&B 業界に関する広範な知識を活かし、当グループは質の高い伝統的な日本料理および和食にヒントを得たヨーロッパ料理のキュレーションに重点を置く、経験豊富なレストラン運営会社として発展してきました。

さらに、長年の経験により、既存および見込みのレストランテナントに対してワンストップのコンサルティングサービスを提供することが可能です。

本発表日現在、当グループは日本で合計 235 のサブリース物件を管理しています。

また、当グループのブランドポートフォリオには 34 店舗のレストランが登録されており、その内訳は日本 15 店舗、シンガポール 10 店舗、マレーシア 9 店舗です。

詳細については、FIH のウェブサイト https://fih.sg/ をご覧ください。